

## 巻 頭 言



さいたま市長 清水 勇人

# 「誰もが安心して暮らし続けることができるまち」の実現に向けて

さいたま市は、今年で市制施行 25 周年という節目の年を迎えます。古くは中山道の宿場町として発展してきた歴史を持ち、現在では、東北・上越など6つの新幹線路線をはじめ、JR 各線や私鉄線が結節する、東日本有数の交通の要衝となっています。こうした交通利便性を背景に、国内外から多くの人々が行き交い、暮らし、働く都市として成長を続けてきました。

また、本市には、身近に親しめる豊かな自然環境が残されているほか、大宮の盆栽や岩槻の人形に代表される伝統文化・伝統産業も受け継がれています。特に、大宮盆栽村は、昨年開村 100 周年を迎え、世界に誇る文化として国内外から高い評価を受けています。本市は、こうした多様な魅力を併せ持つ「住みやすいまち」としても評価され、人口 135 万人を超える都市へと発展してきています。

現在、市内には、就労や就学などさまざまな目的で来日した外国人市民も多く暮らししており、地域社会の重要な一員として、その存在感を高めています。国際化が進展する中、言語や文化、生活習慣の違いから生じる不安や課題に丁寧に向き合い、誰もが安心して暮らせる環境を整えていくことが、自治体に求められていると考えています。

特に、防災、教育、医療といった日常生活に直結する分野の行政情報への円滑なアクセスにおいては、きめ細かな対応が不可欠であり、やさしい日本語を含め多言語による情報提供や相談体制の充実を図っているところです。また、こうした取り組みに加え、本市では、「さいたま市外国人市民委員会」を設置し、外国人市民の意見を幅広く伺い、市政運営の参考とする仕組みを整えているほか、庁内においては、職員を対象とした多文化共生研修を実施し、多文化共生社会についての理解を深めるとともに、やさしい日本語をはじめとする実務に即した対応力の向上に取り組んでいます。

本市では、日本人市民と外国人市民の双方を、地域社会を支える重要な存在として捉えており、都市としてのさらなる発展に向けては、それぞれの力を生かしていくことが重要であると考えています。そのため、地域における交流機会の創出を通じて相互理解を深める取り組みを継続するとともに、多様な立場の関係者と連携しながら、多文化共生施策の推進に努めてまいりたいと思います。こうした取り組みを着実に積み重ねることで、多様性を地域の力へとつなぎ、「誰もが安心して暮らし続けることができるまち」の実現を目指してまいります。